

## 年度評価シート

課名 産業政策課

施設の名称 文化・クリエイティブ産業振興センター	指定管理者名 株式会社ピーエーシー
1 履行状況	
<p>(1) 各数値目標の達成状況について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・利用者数（目標40,000人／年）：38,191人（目標差△1,809人） 利用者満足度（目標90%）：86%（同△4%） マッチング件数（目標5件／年）：10件（同+5件） クリエイター集積数（3者／年）：5者（同+2者）</li><li>・依然、新型コロナウイルスによる外出自粛や開催イベントの人数制限実施により利用者数は目標未達となるも、一過性の要因と判断。新型コロナウイルス終息後はイベント参加人数の制限緩和等により目標達成が見込まれる。</li><li>・利用者満足度は目標未達となるも、毎年86%と高い満足度を維持できている。個別のセミナーやワークショップによっては、90%を超える高い満足度が得られている事業も見受けられており、仕様目的と利用者要望を擦り合わせながら満足度向上を図る。</li><li>・マッチング件数およびクリエイター集積数は目標達成。CCCからの積極的な情報発信が成果に結びついている。</li><li>・上記より、新型コロナウイルスによる影響を除けば概ね目標を達成できていると考える。</li></ul> <p>(2) 事業の実施について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・クリエイターの支援の観点では、クリエイター育成のための講座の開催、発表機会の創出を目的とした展示会の開催、クリエイターの集積及びクリエイター同士のネットワーク構築等が複数の事業で実施されており、一定の成果も見られる。</li><li>・地域文化振興の観点では、展覧会を開催し市民が文化・芸術に触れる機会の創出が成されている。市民参加のセミナーやワークショップも開催することで、クリエイターと市民の交流を促し、文化・芸術分野への啓蒙、理解が広がっている。</li><li>・産業振興の観点では、マッチング事業やデザイン相談事業により企業とクリエイターのマッチングを促し、令和3年度は年間5件の目標を大きく上回る10件の実績があった。また、CCCの登録クリエイターは令和3年度だけで52名増加し、累計登録者数が150名超、クリエイターの集積も図られており、企業とのマッチングの幅が広がりつつあると感じる。</li><li>・上記より、仕様に則った適切な事業実施が成されている。</li></ul> <p>(3) センターの利用許可業務、適正な人員配置、維持管理業務等について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・業務仕様書に則って適切に実施されている。</li></ul>	

--

<p>2 市民（利用者）からの意見・要望の内容とその対応状況の評価（クレーム対応 等）</p> <p>・利用者からの意見・要望に対しては、適切な対応がとられている。また、メディアやチラシ等の媒体により市民に対して情報発信に努めており、また、意見・要望を積極的に取り入れる体制も整っている。</p> <p>【具体的な意見・要望と対応状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・優れた伝統技術や地場産業を知れた。クリエイティブとの融合も良かった。</li> <li>・親子で楽しく参加できた。子供だけでなく親の創造性も掻き立てられた。</li> <li>・他人の意見やアイデアで刺激を受けた。講義の内容を仕事にも活かしていきたい。</li> <li>・もっと企画事業をPRして欲しい。 →公式HPのリニューアル、SNS（特にインスタグラム、フェイスブック）の発信強化など</li> <li>・キッズ向けワークショップを増やして欲しい。 →キッズ向けのワークショップを増枠。トレンドのプログラミング講座を開講。</li> </ul>
---

<p>3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価</p> <p>・施設利用者に対しては、各セミナー終了後や展示会ごとにアンケート調査を実施。全体では「とてもそう思う（良い）」「思う（良い）」の評価が86%であり、目標値には4ポイント届いていないが、総じて事業参加者の満足度は高い水準にある。</p> <p>・展覧会を除く事業（セミナー／ワークショップ等）では満足度が90%を超える事業が多数ある。</p>
--

<p>4 指定管理者の経理状況の評価</p> <p>指定管理業務についての収支状況は、概ね予算どおりに執行されており、良好である。</p>
---

<p>5 総括的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）</p>					
<table border="1"> <tr> <td>前年度事務事故発生の有無</td> <td>有</td> </tr> <tr> <td>年年度モニタリング調査における改善協議事項の有無</td> <td>無</td> </tr> </table>	前年度事務事故発生の有無	有	年年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無	
前年度事務事故発生の有無	有				
年年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無				
<p>【事務事故について】</p> <p>・令和3年4月11日発生。施設開錠を行う職員が鍵の携帯を失念し、開館時間が1時間遅延した。被害状況は、展示会で作品展示を行っていた作家1名及び観覧に来た市民5名について、開館する11時までお待ちいただいた。発生原因は、職員の鍵の携帯失念及び開館時の職員配置が1名のみであったこと。よって、指定管理者には開館時間における人員配置を必ず2名以上で行うことを徹底。その他、職員出勤時における持ち物確認の意識徹底を指導した。</p>					

### 【総括的な評価】

・業務仕様書と事業計画に則った適切な施設運営が成されている。新型コロナウイルスの影響を受けながらも、感染予防策を講じながら計画通りに展覧会やセミナー等を開催し、クリエイターの活動支援に努めたと考える。

・クリエイターの支援に留まらず、市民向けの展示会やワークショップの開催、クリエイターと企業のマッチング推進等も実施することで、地域文化振興・産業振興の観点でも大いに寄与していると考ええる。

・令和3年度は指定管理者の知見を活かした子供向け事業の増枠、HPやSNS（特にインスタグラムやフェイスブック）を積極的に活用した情報発信が成されている点も評価できる。その結果、年代別来館者では20歳未満の割合が最も多く、新規来館者も全体の6割超となっており、文化・クリエイティブ産業への裾野、理解を広げることに寄与したと考える。

・現在は、新規来館者獲得を図った事業の企画を主眼に置いているが、リピーターを増やすことも重要であり、単発の事業企画ではなく関連性や段階的にスキルアップできる事業等を企画することで、文化・クリエイティブへの理解を深めていってほしい。

・産業振興の観点では、CCCに集積しつつあるクリエイターの活用を更に強化し、地域産業の高度化及びクリエイターの生業としての活動支援を図っていく必要があると考える。

※事務事故が発生したとき及びモニタリングにおいて改善の指導があったときは、必ず改善状況を記載すること。